

平成28年度北海道大学大学院

文学研究科修士課程入学試験問題（後期）

試験区分	<ul style="list-style-type: none"><li>■ 一般入試</li><li>■ 外国人留学生特別入試</li><li>■ 社会人特別入試</li></ul>
試験科目名	<ul style="list-style-type: none"><li>■ 専門試験（西洋文学）</li><li>□ 共通外国語（）</li></ul>
出題の意図	<p>西洋文学科目の問題は、英米・英語圏文学、ドイツ文学、ロシア文学、フランス文学および西洋古典学（ギリシア語・ラテン語）の各分野から出題されている。出題の意図は、修士課程の標準修業年限内に修士論文を提出するための前提条件を満たしているかどうかを問うものである。具体的には、それぞれの分野における基本的な文学史・文学理論等に関する知識レベル及び欧文（英語、ドイツ語、ロシア語、フランス語、ギリシア語、ラテン語）文献の読解力を判定する。</p>

平成28年度  
北海道大学大学院文学研究科修士課程入学試験問題（後期）  
（専門試験） 西洋文学 全11枚のうち1枚目

この試験では、試験問題 11枚、解答用紙 2枚を配付する。

解答における注意

（専門試験）西洋文学の出題範囲は、英米・英語圏文学、ドイツ文学、フランス文学、ロシア文学、西洋古典学です。志望する分野に応じた出題範囲の問題を選択し、その設問Ⅰと設問Ⅱに答えてください。

解答用紙は2枚あります。それぞれの解答用紙の回答欄の1行目左に、出題範囲と設問番号を記入してください。各設問は別の解答用紙を使ってください。

出題範囲・設問・ページ

英米・英語圏文学	設問Ⅰ・設問Ⅱ	2～3
ドイツ文学	設問Ⅰ・設問Ⅱ	4～5
フランス文学	設問Ⅰ・設問Ⅱ	6～7
ロシア文学	設問Ⅰ・設問Ⅱ	8～9
西洋古典学	設問Ⅰ・設問Ⅱ	10～11

[英米・英語圏文学] 設問 I

Choose two literary terms out of “chronicle,” “hyperbole,” “parable,” and “supernaturalism” and then discuss each term separately. Where does it come from? How does it work? Has its function changed? Demonstrate your understanding of each term, first by its original definition and then by its current use in English literature. Make sure you explain its characteristics by referring to at least two literary texts in order to effectively prove your idea(s).

On the first literary term of your choice, please write the essay in Japanese, though you may refer to the texts' titles and term(s) in English. The essay on the second literary term you choose has to be written in English. You may write as much as you wish within the given time.

[英米・英語圏文学] 設問 II

次の英文を和訳せよ。

\* 問題本文は著作権法上の理由からこのホームページに掲載することはできませんので、下記の  
出典箇所を参照するか、文学研究科教務係の窓口で閲覧してください。

出典: John T. Irwin, *The Mystery to a Solution*. Johns Hopkins University Press, 1994. pp. 229-30.

設問 I [ドイツ文学]

次のドイツ語の文章を日本語に訳しなさい、

- \* 問題本文は著作権法上の理由からこのホームページに掲載することはできませんので、下記の出典箇所を参照するか、文学研究科教務担当の窓口で閲覧してください。

出典 Anne Frank: Die Tagebücher der Anne Frank, S. Fischer Verlag, Frankfurt am Main 1988, S. 219f.

設問Ⅱ [ドイツ文学]

次の2問に答えなさい。

問1 次の①～③の中から1つを選んで簡潔に説明しなさい。

- ① フェミニズム批評 (Feminismuskritik)
- ② 放送劇 (Hörspiel)
- ③ トーマス・マン (Thomas Mann)

問2 次の文章は、ヴィトゲンシュタインの »Bild« -Theorie をめぐる議論の一部である。その論点を述べなさい。

\* 問題本文は著作権法上の理由からこのホームページに掲載することはできませんので、下記の出典箇所を参照するか、文学研究科教務担当の窓口で閲覧してください。

出典 Allan Janik, Stephen Toulmin: Wittgensteins Wien, Carl Hanser Verlag, München 1985, S. 246f.

設問I [フランス文学]

以下のフランス語の文章をすべて和訳しなさい。

- \* 問題本文は著作権法上の理由からこのホームページに掲載することはできませんので、下記の出典箇所を参照するか、文学研究科教務担当の窓口で閲覧してください。

出典：Albert Camus, *La Mort heureuse*, dans *Œuvres complètes*, tome I, Gallimard, « Bibliothèque de la Pléiade », 2006, p. 1105.

設問II [フランス文学]

以下のフランス語の文章をすべて和訳しなさい。

- \* 問題本文は著作権法上の理由からこのホームページに掲載することはできませんので、下記の出典箇所を参照するか、文学研究科教務担当の窓口で閲覧してください。

出典：Kamel Daoud, *Meursault, contre-enquête*, Actes Sud, 2013, p.11.



[ロシア文学] 設問Ⅰ

次にあげる人物のうち一人について、その文学史上の意義を含めて説明しなさい。

1. А. П. Сумароков (1717-1777)
2. А. С. Грибоедов (1794/95-1829)
3. В. Г. Белинский (1811-1848)
4. Н. С. Лесков (1831-1895)
5. Е. И. Замятин (1884-1937)

[ロシア文学] 設問 II

次の文を日本語に訳しなさい。

- \* 問題本文は著作権法上の理由からこのホームページに掲載することはできませんので、下記の出典箇所を参照するか、文学研究科教務担当の窓口で閲覧してください。

出典： *Денисенко С. В. Литературная репутация Фаддея Булгарина// в кн. Булгарин Ф. В. Дурные времена: Очерки русских нравов. СПб.: Азбука-классика, 2007. С. 11-12.*

[西洋古典学] 設問 I

次の文を日本語に訳せ。また、この著者及び著作（以下の文章の出典たる著作だけに限らない）について、知るところをなるべく詳細に述べよ。

Φιλόστρατος μὲν ὁ Δήμιος ἀναγράφων τοὺς βίους τῶν μέχρι αὐτοῦ σοφιστῶν, ἐν ἀρχῇ τοῦ λόγου δύο μερίδας ποιεῖ, τῶν τε αὐτὸ τοῦτο σοφιστῶν, καὶ τῶν ὅσοι φιλοσοφήσαντες διὰ τὴν εὐστομίαν ὑπὸ τῆς φήμης εἰς τοὺς σοφιστὰς ἀπηνέχθησαν· καὶ τὰττει τὸν Δίωνα μετὰ τούτων, ἐν οἷς Καρνεάδην τε καταλέγει τὸν Ἀθηναῖον καὶ Λέοντα τὸν Βυζάντιον καὶ συχρὸς ἄλλους καταβιώσαντας μὲν ἐπὶ φιλοσόφου προαιρέσεως, λόγου δὲ ἰδέαν σοφιστικὴν ἡρμοσμένους, ἐν οἷς ἀριθμεῖ καὶ τὸν Κνίδιον Εὐδοξον, ἄνδρα τὰ πρῶτα τῶν Ἀριστοτέλους ὁμιλητῶν, ἀλλὰ καὶ ἀστρονομίας εὖ ἤκουτα, ὅπως ὁ τότε χρόνος ἐπρέσβευεν. ἡμῖν δὲ ὁ Δίων τῇ μὲν περιβολῇ τῆς γλώττης, ἣν χρυσοῦν εἶχεν, ὥσπερ καὶ λέγεται, σοφιστῆς ἔστω διὰ πάντων τῶν ἑαυτοῦ, εἴ τις ἀξιοῖ τὴν ἐπιμέλειαν τῆς φωνῆς σοφιστικὸν ἀγώνισμα οἶεσθαι· καί τοι καὶ τοῦτο μετὰ μικρὸν ὁποῖόν ἐστιν ἐξετάσομεν· τὴν δὲ προαίρεσιν οὐχ εἰς ὁ Δίων, οὐδὲ μετὰ τούτων τακτέος, ἀλλὰ μετ' Ἀριστοκλέους, ἀπ' ἐναντίας μέντοι κακείνῳ.

Synesius Cyrenensis, *Dion*, I 1-3

註：

- ・Φιλόστρατος、Καρνεάδης、Λέων、Εὐδοξος、Ἀριστοκλῆς それぞれ作家の名
- ・εὐστομία 言葉の見事さ
- ・ἀποφέρω 運び戻す（この場合は「算入する」ぐらいか）
- ・προαίρεσις （行動の）指針
- ・εὖ ἤκω + gen. ～に秀でる
- ・πρεσβεύω ～を養う、促す
- ・περιβολή 拡充、敷衍、展開
- ・ἀπ' ἐναντίας + dat. ～と反対に

## 〔西洋古典学〕 設問Ⅱ

次の文を日本語に訳せ。また、この著者及び著作（以下の文章の出典たる著作だけに限らない）について、知るところをなるべく詳細に述べよ。

Interea inruentibus intra Gallias barbaris, Iulianus Caesar, coacto in unum exercitu apud Vangionum civitatem, donativum coepit erogare militibus, et, ut est consuetudinis, singuli citabantur, donec ad Martinum ventum est. Tum vero oportunitate existimans, quo peteret missionem – neque enim integrum sibi fore arbitrabatur, si donativum non militibus acciperet – : hactenus, inquit ad Caesarem, militavi tibi; patere ut nunc militem Deo. Donativum tuum pugnaturus accipiat; Christi ego miles sum: pugnare mihi non licet. Tum vero adversus hanc vocem tyrannus infremuit dicens eum metu pugnae, quae postero die erat futura, non religionis gratia detractare militiam. At Martinus intrepidus, immo inlato sibi terrore constantior: si hoc, inquit, ignaviae adscribitur, non fidei, crastina die ante aciem inermis adstabo et in nomine Domini Iesu, signo crucis, non clipeo protectus aut galea, hostium cuneos penetrabo securus.

Sulpicius Severus, *Vita sancti Martini*, IV 1-5

註：

- ・ Vangiones Germania の一部族
- ・ donativum 下賜金
- ・ missio ここでは「除隊」
- ・ infremo -ere -fremui 吠える
- ・ ignavia 臆病さ
- ・ clipeum 盾の一種
- ・ galea かぶと
- ・ cuneus くさび形隊形